



全国川ごみネットワーク
亀山 久雄座長



吉野川交流推進会議
福永 義和会長



徳島県
飯泉 嘉門知事



アドプト・プログラム吉野川について説明する福永義和会長

第5回川ごみサミットinとくしまとの 共同開催で、日本三大河川シンポジウムを開催

近年、川を通じて海へと流れ出るプラスチックごみが地球規模の問題となつています。そこで、今年度の日本三大河川シンポジウムは「第5回川ごみサミットinとくしま」との共同開催とし、深秋の徳島に全国から河川関係者や環境団体などが一堂に集結！ 自由で、建設的で、しかもユーモアに満ちた、まさに「サミット」の名にふさわしい活発な議論が交わされました。

平成24年に兄弟縁組を締結して以来、交流を深めてきた日本三大河川の仲間が今年も徳島にやってきました。11月9日、徳島市のとくぎんトモニプラザにおいて、5回目となる日本三大河川シンポジウム2019を開催。川ごみ問題に焦点を当てた全国大会「第5回川ごみサミット inとくしま」との共同開催で、全国の河川関係者と環境美化の取り組みについて意見交換を行いました。

第1部

まず、主催者である全国川ごみネットワークの亀山久雄座長、開催地を代表して徳島県の飯泉嘉門知事のご挨拶に続き、吉野川交流推進会議の福永義和会長より当会議の活動や日本三大河川の兄弟縁組についてご紹介。「お互いに刺激し合い、活動が推進されることを期待しています。全国の河川と交流の輪を広げていきましょう」と呼びかけました。

続いて、「里海」

創生リーダー認定証授与式、県内外の6団体による事例発表、環境省・国土交通省による川ごみ問題への取り組みの発表が行われました。



立ち見が出るほどの盛況ぶりでした

徳島県からは、まず神山町の広野小学校の児童が、鮎喰川の水質や水生生物の調査、河川清掃、環境問題学習について発表。「大切な鮎喰川がもつときれいになって、私達が大人になった時、自慢できる川であってほしい」と語った11人に、大きな拍手が送られました。

さらに、アドプト・プログラム吉野川の参加団体を代表してNPO法人江川エコフレンドが壇上へ。全国名水百選のひとつ・江川湧水源周辺での清掃美化活動を通じた町づくり、青少年育成などの取り組みが紹介されました。福永会長もアドプト・プログラム吉野川について

「里海」創生リーダー認定授与式



「とくしまSATOUMIジュニアリーダー」に認定された神山町広野小学校の皆さん

人の手が加わることにより、美しい景観や、生物の多様性・生産性が高くなった沿岸海域を「里海」と言います。徳島県では「里海づくり」の活動を支える人材育成を目指し、「里海」創生リーダーの認定を行っています。この日はとくしまSATOUMIリーダー6名、ジュニアリーダー（小学生・中学生）13名に飯泉知事から認定証が授与されました。

「約140の団体・企業が参加しています。団体名を記した看板が建ち、責任感が出ます。ごみを拾っている姿を見れば、人はごみを捨てられなくなります」と詳しく紹介しました。

